

# 台風14号による現地調査 (宮崎県宮崎市)

令和3年9月台風14号に伴う大雨により9月16日に被災した宮崎市小内海地区、野島地区において、斜面の土砂崩れが発生し国道220号の通行止が発生。また、近隣被災箇所を宮崎市より支援要請があり、各地区において現地状況の詳細な把握及び対応策の検討のため、TEC-Doctorを派遣し現地調査及び助言等を実施した。

出席者: 宮崎大学 横田名誉教授、清水教授、福林准教授、 宮崎県、宮崎市、JR九州

## ● TEC-Doctorによる調査(令和3年9月16~18日)



### 【清水教授より】

- ①下大谷川(土石流)・・・今後の雨量(回復傾向)を考えると、大雨が降らない限り土石流の危険性は少ないと思われる。
- ②仁田内谷川(土石流)・・・普段の流量が現時点より少ないことを考慮すると大雨が降らない限り沢の奥より大量の土砂が砂防堰堤を乗り越えてくる可能性は少ないと思われる。
- ③野島(急傾斜地の崩落)・・・老朽化した擁壁の上の表層の軟らかい土砂が流出している。鉄道の擁壁にクラックが入っており、雨の降り方にも注意が必要である。

### 【福林准教授より】

- ①大規模な斜面崩壊は、稜線近くの2箇所の上部崩落箇所が、原因であると考えられる。
- ②小内海駅付近から巾着島にかけて断層があり、今回崩壊したところにも関連する断層が存在している可能性があり、その影響もあるかもしれない。
- ③稜線付近の地層が見えれば、もう少し詳しい分析ができるので、現地での調査をしてみたい。